



岐阜県郡上市・片知渓谷

私のフォトライフ

岐阜県岐阜市在住 佐藤 静雄

私事ではございますが、今年1月に胃癌が見つかり、胃の2/3を取る手術を受けましたが、少しずつ回復して、現在は電気工事の仕事をしながら通院を続けております。

上の写真ですが、大きな岩の上では一本ではとても生きられず、6種類位の木、約12本くらいが根を絡ませて助け合いながら風説にも耐え元気に生きている姿を偶然見つけて、一瞬後ずさりする思いでした。

さて、次に千年以上も生きている桜一本一本にも、地元住民の人々の保存に際して血の滲むような努力が、長年に渡って続けられたり、又、ダム湖に沈む二本の桜を高台に移植されたりと、一本一本の桜には多くの歴史が存在します。

今の私には、今まで美しいとだけ感じていた桜ですが、何故かこれまで以上に気持ちが繊細に働き、出会う木々に愛しさが強く感じられます。今の私のフォトライフとしては、美しいという外感だけではなく、その被写体の醸し出すオーラを感じられるようなものを探しています。

数年前に写真展に出した根尾谷の薄墨桜ですが桜の季節になると雨の日も風の吹く日も通い撮影しました。千五百年生きてきた木の心情に迫る表現が仲々出来ず苦悩した結果、自分なりに考えた撮影方法です。フラッシュを桜の上部に当て、レンズを1ミリ位下げフラッシュを焚くということを7回繰り返し、最後に今迄フラッシュの届いていない一番下の千五百年生きてきた不動の樹の幹を浮かび上がらせるという方法で撮影しました。

話は変わりますが、今いじめによる自殺等のニュースを見るたび、事前に防ぐことがどうして出来なかったのかと心が痛みます。いじめの子には優しい心を育て、いじめられる子にはもっと強く生きて欲しいと、そんな願いで

崖ぶちでも天に伸びようとがんばる木
岩の上で助けあって生きる木
杉の切り株の中で大きくなろうとがんばっている木

私はこの様々の木の姿の写真を小中学校で見て頂き、子供達に優しく、又、強く生きて欲しいと願い、写真を巡回する用意を今始めて居ります。

岐阜県には根尾谷の薄墨桜、高山の臥龍桜、庄川のダム湖に沈むのを助けられた庄川桜等、有名な桜があります。

この写真の木々は、郡上市片知溪谷です。頂上近くの現場まで車で行くことが出来ず。春には赤やしお、白やしお、又シャクナゲも咲く場所でもあります。ご希望の方にはご案内させていただきます。

私の現状はこのようなものです。皆様の写真展での作品を楽しみにしております。

2018展出展作品の審査進捗状況

実行委員長 田中 明

10月の展出展作品審査も終了し、いよいよ2018展の作品選考は、11月の展出展作品確認会を残すのみとなります。10月迄に展出展選考を完了された会員は、**11月の最終展出展作品確認会の際に、展出展作品の差替審査を受けることが出来ます。**展出展作品の差替を希望される会員は、**必ず11月の展出展作品確認会に作品を提出し、差替審査を完了下さい。**

10月選考会で展出展作品審査を完了された会員は、以下の通りです。

池村 勝治：自由1点
楳垣 茂：自由1点
梅林 正道：自由（課題）1点
鈴木 克彦：自由1点、モノクロ1点
高田 幸二：自由2点

滝澤 英雄：自由（課題）1点
田中 俊寛：自由2点
橋本 雅由：モノクロ1点
秦 正則：自由1点
早間 義高：モノクロ1点
三輪 正一：自由2点
村林 俊弘：自由（課題）1点

10月選考会で新規に展出展審査を完了された会員8名を加え、展出展審査を完了された会員は31名となりました。

10月展出展作品審査会に作品を提出戴いた会員で、作品到着が遅れたため審査に間に合わなかった方が数名いらっしゃいます。事務局への到着が遅れた作品については、11月展出展作品確認会で確認・審査します。

展出展作品の審査が完了された会員は、**各自で最終展出展作品を決めた上で、10月号に同封の展出展作品データシートに必要事項を記入し、（モノクロ作品を除き）必ず原板フィルムを添えて事務局 松本宛に11月10日迄に到着するよう送付下さい。**（11月作品確認会に出席される会員は、当日ご持参下さい。）

なお、モノクロ作品については、展出展用の全紙プリントを事務局宛に期日までに提出戴きますので、原板フィルムの提出は不要で、データシートのみ提出下さい。

11月研究会のお知らせ

研究会担当 垣内 晃

11月研究会を以下の日程で開催致します。会員の皆様、奮ってご参加下さい。

日時：11月11日（土）13:30~15:30

場所：大阪・南船場 大阪写真会館

5階会議室

内容：

1. 最終展出展作品確認会：

11月の研究会では、最終展出展作品の確認を行います。既にご連絡の通り、最終展出展作品確認会では**展出展作品の差替審査**を受けることが出来ます。10月までの展出展審査で展出展候補作品の決まった方で作品差替を希望される方

は、11月10日までに審査完了済み出展候補作品と差替希望作品にそれぞれ出展作品データシートを添えて、事務局 松本宛に送付、もしくは当日会場に持参下さい。

11月研究会にて出展作品の最終確認を終え、会員の出展作品は全て決定致します。これ以降の作品の変更・追加は行いませんので、会員各位におかれてはご留意下さい。

2. その他連絡事項

【モノクロ部会の研究会日程】

11月モノクロ部の研究会は、11月12日(日) 13:00から『神戸B&W Labo』にて開催します。(研究会は毎月第2日曜日に開催)

暗室は10時頃から使用できます。プリント体験を希望される方は、モノクロネガフィルムを持参の上、参加下さい。

モノクロ部会の活動報告

モノクロ研究会 松本 憲治

10月の研究会には5名のメンバーが参加し、各自モノクロプリントを楽しみました。



暗室作業の様子

モノクロ部会のメンバーも、最近では暗室作業に慣れ、標準的な2号フィルターで適正露光で焼くだけでなく、号数を変えたり、覆い焼きや焼きこみなどの技術を駆使して、より印象的な作品に仕上げるようになってきました。2018展で各自、自分でプリントした作品を展示することを楽しみに活動しています。

そろそろ出展作品を決めた会員もあり、当初予定を少々繰り上げ、11月3日(金)から全紙プリント制作を開始します。

出展作品の全紙プリントは、作品1点のプリント作業に時間が掛かる為、『全紙プリント制作は、当日1名で貸切り』とします。(助力が必要な方は、アシスト致します)

作品の仕上がりに影響の大きい印画紙現像液は、『再使用せず使い捨て』にします。全紙用バットの薬液必用量を計測したところ、7.5ℓあれば作業可能と判りました。現像液は作業当日に7.5ℓ新しい希釈液(1+14希釈で使用)を各自で調整することとします。

因みに10月末時点でのモノクロ部会メンバーの出展作品数は、

安達：1～2点、梅田：2点、垣内：2点、加藤：1～2点、鈴木：1～2点、田中：1点、橋本：2点、松本：2点

合計：12点～15点 と見込んでおります。

モノクロ部会の活動拠点の『神戸B&W Labo』の現状を、簡単に紹介致します。

開設当初は、8x10自作モノクロ引伸し機x1台、4x5カラー・モノクロ引伸し機x各1台、6x7カラー・モノクロ引伸し機x各1台の合計5台の体制でスタートしましたが、現在は35/6x7用の引伸し機を倍に増やしました。開設当初は広く感じた暗室も、最近では4、5名入ると手狭に感じるほどです。

設備的には、7月にエアコンの設置により夏場の作業が快適になりました。小型のドライマウントプレス機も設置され、パライタ印画紙のフラットニングやモノクロプリントのマットボードへのドライマウントも出来るようになりました。16x20インチの印画紙(小全紙)がそのまま処理可能な薬液バットも新しく入れました。引続き暗室内の設備の改善を続けて、より快適に暗室作業を楽しめる環境を構築する予定です。

モノクロ写真に興味のある方は、毎月第2日曜日に開催します研究会のプリント体験に参加下さい。

一般の方の参加も、大歓迎です!



埼玉県秩父横瀬町・寺坂棚田 シュナイダー 90mm, F34, 4秒, RVP100 4x5

私のフォトライフ

埼玉県入間市 澤田 平司

私が写真に興味を持つようになったのは、友人に写真好きがおりまして、だんだんのめり込むようになっていきました。はじめは35ミリカメラから始まり、20年近くカメラと付き合っています。よくも飽きないで写真撮影に勤しんでこられたものだ。

写真を始めて間もなく、友人に誘われて写真教室に通い始めました。そこで初めて写真の難しさを知り、夢中になっていきました。勉強を始め近所の写真屋さんに通い、そこで初めてポジフィルムを使い一眼レフカメラの基礎から教えて戴いた。

当初はスナップ写真を中心に撮影していたように思います。写真屋さんに通ううちに写真仲間ができ、一緒に写真撮影に行くようになりました。益々写真好きになり、ある日、写真展を見に行かないかと誘われ一緒に行き、そこで初めて大判写真を観たのが大判カメラでの撮影を始めるきっかけでした。

私の行きつけの写真屋さんは、プロカメラマンで建築写真を中心に撮影をしていたようです。写真屋さんに通い、大判写真のイロハ

から教えてもらい他のカメラと違うことに気づき、猛勉強をした経験がありました。大判写真で撮影をする風景は、他のカメラでは味わえない風景です。これからも体力とフィルムの続く限り、撮り続けていきたいと思っております。

紹介させていただく撮影場所は、埼玉県秩父横瀬町にある寺坂棚田です。私は寺坂棚田には、大判カメラを始めて間もないころから通い始めました。4月の田起こしから通い、5月の中旬から始まる田植え、秋の稲穂の稔り頃になると、棚田には曼珠沙華の花が咲き始めます。

撮影データ；

埼玉県秩父横瀬町寺坂棚田、トヨフィールド、レンズ：シュナイダー 90mm、絞り：F35、シャッター速度：4秒、RVP100で撮影



「秋景」 埼玉県足尾町 CMフジノン 250mm, F22, 1秒, RVP100 4x5

私のフォトライフ

群馬県佐渡郡玉村町 高橋 正美

私がカメラを手に入れたのは60年前頃です。その頃は写真には全く興味がなく、ただひたすらにカメラの構造に興味があり、分解してはダメにしてしまい、写真を撮ってもまともに写らない。当然のことですが。

カメラに限らず、全ての動く機械機器を分解しては構造を楽しんでいました。フォトライフとは遠い存在でした。当然、親にも見つかり、カメラは勿論おもちゃさえも与えて貰えず、超貧乏な家だったのでその後は言うまでもありません。何一つと物は与えてもらわず写真やカメラのことは一端記憶から消えました。しかしその4～5年後、ひょんなことからミノルタの一眼レフカメラを手に入れることが出来たのです。流石にこの一眼レフカメラは分解出来ません。それからは、真面目に色んな物を撮ってましたが、今でもコンテストには興味がなくて自分の好きなように撮っていました。そして、今までモノクロだった時代から、カラーフィルムに移行しました。

カラーといっても当時は色が薄くて、色の薄い水彩画を見ているようで、時にはモノクロかカラーか分からない時もありました。

それでもカラーが主役の時代稲荷、カラー写真をメインに撮っていました。

また、その頃からフィルムの粒子が気になり、35ミリよりブローニーフィルムの方が良いと、アサヒペンタックス67を手に入れました。(勿論、逆にトライXのような粒子の荒いフィルムがあることは知ってます。でも、あまり好きではありません。) 6x7でまたモノクロに戻ります。50年も前なので私も若く、ハマっていたのがモデル、ヌード(プロ、アマチュア)、同僚、手当たり次第に女の子を撮ってお風呂に水を張りマットパネルの写真を作り、その子にあげていました。やがてポートレートも飽きて、ブローニーフィルムのポジで本格的に風景写真を撮り始めました。

さらに20年間、中判で風景一筋で撮ってききましたが、たまたま4x5で撮った写真展があり見てしまいました。また腹の虫が騒ぎ出して、4x5の方が写りが良いと分かりホースマンを購入し、その後は4x5一筋で風景を撮ってます。勿論、シャインフリュークの法則を単独で勉強しました。しかし、考えてみたら大判写真を使っている人は殆どいないことに気づき、なんとかかせねば～と思い大判フィルム専門のクラブを立ち上げ、写韻富琉俱(シャインフリューク)と名付けました。25年前10名

いた会員も、今は4名のみ。活動はほぼ休止状態です。デジカメに押されて、私までもデジカメを使うことになってしまった。でも、展示用は4x5で、コンテストはデジカメと分けて撮ってます。

これからもフィルムのある限り、フィルムで撮り続けます。4x5のフィルムの現像が上がってきた時は、「撮ったどー」と、思わず叫びたくなります。

「秋の乗鞍高原撮影会」の報告

撮影会担当 高田幸二

10月14日は一の瀬周辺での撮影です。乗鞍高原は秋雨前線の影響で曇りでしたが、白樺並木、乗鞍岳をバックに大カエデ、どじょう池が恰好の撮影ポイントとなります。4時頃には日が差し込み好条件となり撮影を楽しみました。やがて日も暮れこの日はこれで終了。



一の瀬 乗鞍岳をバックに大カエデ



一の瀬 どじょう池にて

10月15日は朝から小雨模様の天気。この日、畳平グループと休暇村周辺グループに分かれての撮影行です。畳平グループはバスで畳平を目指します。途中雲が切れ雲海の上に穂

高、槍ヶ岳が見え最高の景色です。畳平に着後、バスで一駅戻った「大雪溪・肩の小屋口」に戻り撮影を試みました。雨はなく曇りでしたが、暫くすると雲が上がってきてまたたく間に雲の中... ほんの一瞬でしたが、雲が切れ大雪溪を見ることができました。例年より雪が少ないそうです。雪を楽しんでいる若者グループを望遠で納めることが出来ました。しかし穂高、槍ヶ岳は厚い雲に阻まれ、笑顔を見せてもらえず... 雨が降り出し、2日目はこれにて終了。休暇村周辺グループは、雨が止むのを待ち「善五郎の滝」をロケハン。その後休暇村周辺を散策し、早々に休暇村へ戻ることに。午後には全員が部屋に集まり撮影談義に花を咲かせました。



大雪溪を楽しむ若者たち

10月16日も朝から雨です。まず休暇村前で記念写真を撮影。



前日バスからのロケハンで、三本滝の手前あたりで雲海の中に紅葉した尾根を見ました。そこに行きましたが残念ながら厚い雲と雨で撮影には至らず、三本滝の駐車場まで行き撮影会は終了し、現地にて解散。

今回は曇りと雨で残念な撮影会でしたが、またの機会を楽しみにしてください。



長野県 / 松本市 乗鞍高原 5x7 210ミリ

インスピレーション

会長 鈴木 克彦

広辞苑「あたかも心霊を吹き込まれたように精神活動が異常に昂まること。」「靈感」
外来語・略語辞典「ひらめき」「靈感」

大判カメラでの撮影に限らず、写真を撮る（自然を切り取る）段階で、このインスピレーションが大きな役割を果たしていることは間違いありません。私たちが、ある自然景観を見て「何らかのひらめき」があったとしますと、「よし！これを撮ろう！」「ここで撮ってやろう！」と心が動きます。つまりインスピレーションがあってはじめて行動が始まると思われます。

今回の上の写真は、乗鞍高原一の瀬園地を廻って、さらにその奥を下見していたときのことです。突然、目の前にこの景観が現れたのです。やや薄日が差しており、枝振りが込み入っているにもかかわらず、この時期ならではの秋の風情がありました。正に「ここ撮って！」と呼び込まれたのは事実です。瞬間、ここなら5x7で210ミリか？すぐに三脚を立てて、カメラを据えました。これらの作業が（自分で言うのも面映ゆいことですが）なんの曇りも無く、さらさらと流れていき、フ

レーミング、ピント調整、露出の確定と進みシャッターを押しました。1/2の露出の差で2枚撮りました。ただし、シャッターを押す段階で、薄日があった景観にやや陰りがあったため、鮮やかさに欠けたところがあったかも知れませんが…。

私たち大判カメラを主に撮影場所を探るときは、例えば、車で移動している時を想像してみてください。(尤も脇見運転は危険ですが)交通の少ないときは、敢えてゆっくりと走らせて、瞬間瞬間を垣間見、「おおここだ！」と感じたインスピレーションが起きる場所を大事にします。危なくない場所であれば車を止めて、そのフレームを確認します。確認の眼は「ここなら4x5か？」「5x7？」「8x10か？」瞬時に頭が回転します。「次にレンズは何ミリか？」となるわけです。これらの行動は、自ずと「この景観は、小判？中判？大判？」と頭で判別します。経験則からこうなるのです。

インスピレーション（ひらめき）を昂める一つの方法は、たえず自然景観をよく見ることです。鋭い観察力も必要です。難しいモノではありません。それを掴めるかどうかです。

皆様のご意見をお聞かせ下さい

事務局 松本憲治

会員各位には、平素より当協会の諸活動に対しご理解とご協力を頂き、ありがとうございます、

さて、2018展の出展作品の審査も10月の研究会で終了し、後は11月研究会での差替審査を残すのみとなりました。2018展の出展審査を受けられた方が、昨年に比べ大きく減少しており、2019展以降の写真展の運営について大きな不安を払拭できません。

10月の研究会においても、出展諸費用（作品制作費、出展料、作品集制作費の合計額）の削減について意見を聞かせて戴きました。概ね意見交換の内容は以下の様なものです。

1. 展示作品の制作費が高い。

→現状の銀塩プリントでは値下げは難しいが、インクジェットプリントなら可能性がある。

→インクジェットでは銀塩写真の特徴が無くなる

銀塩は高いが高画質(?)

インクジェットは安いが深みがない(?)

→全作品を「インクジェットか？銀塩か？」ではなく、どちらかの選択制にする

安くあげたい派 = インクジェット

銀塩にこだわり派 = 銀塩プリント とか

2. 作品集の制作費がネックなのは？

→作品集の製作を止める

→作品集の売上分をどうカバーする？

3. 会場飾り付け費用（マルイ美術への支払い）が高くないか？

→京都市美術館に出入りの他の業者と相見積を取り価格交渉する

→公募展の出展者を増やす方法を考える

（応募料や出展料の収入を増やす）

4. 展示作品に変化がなくマンネリ化してないか？

→2：3比率のトリミングによる画一化の弊害はないか？

→ノートリミングでの作品展示の検討は？

→2：3比率での展示が大判写真展の伝統であるので、比率は守るべきである

→折衷案として、従来の自由作品の部、課題作品の部と並列して「ノートリミングの部」を新たに作る（副題「フィルムフォーマットを楽しもう！」）

5. デジタル部門の再検討

→デジタルの中判も使用者が増えているので、もう一度検討しては？

→デジタルで出展者数を増やすには、より一層高額な作品制作費がネックになる

→インクジェットプリントによる作品制作費の削減と合わせる必要がある（インクジェットプリント作品の導入は不可避）

6. モノクロ部門の作品展示が一つの指標にならないか？

→銀塩、デジタルの何れも可

→印画紙、インクジェットの何れも可

→トリミングの有無は問わない

→2018展で応募が増えるか減るか？

何れにしる、2019展以降の写真展をどのように運営していくか？について、1) 銀塩人口が高齢化により減少していることや、2) カラー写真でのデジタル主流の流れの中で、何らかの対策なしでは継続的な運営が困難という点では出席者の意見は一致している。

2018展の会場での2019展の募集案内の配布などを考えると、募集要項の内容を検討するのに、殆ど時間的な余裕はありません。

写真展を継続的に運営するためにも、会員各位からの活発なご意見を、事務局松本宛にお寄せ下さい。